

読書週間 「ラストページまで駆け抜けて」

10月27日～11月9日

終戦から2年後の1947（昭和22）年、まだ戦争の傷あとが日本中のあちこちに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と、出版社・取次会社・書店と図書館が力をあわせ、そして新聞や放送のマスコミも一緒になり、第1回「読書週間」が開かれました。

それから70年以上が過ぎ、「読書週間」は日本中に広がり、日本は世界のなかでも特に「本を読む国民」の国となりました。今年の「読書週間」が、みなさん一人ひとりに読書のすばらしさを知ってもらおうきっかけとなることを願っています。



★マナーアップキャンペーン★（10月27日～11月9日）

図書館の本はみんなで使うものなので大切に扱いましょう。
もし誤って破ってしまった場合は、自分で修理せずにそのまま返却してください。専用の道具を使って図書館で修理します。

～図書館の開館時間～

開館時間	日曜日～木曜日	10:00～18:00
	金曜日	10:00～20:00
	土曜日	10:00～19:00
休館日	毎月第1・3水曜日（祝日の場合は翌日）	
	年末年始（12月28日～1月4日）	

★11月25日（水）は文庫交換のため休館します★

大野城まどかぴあ図書館

第41号
2020 秋号

10代のための図書館情報誌

わいわいばら



読書の秋スペシャル！



まどかぴあ図書館には、10代の方に読んでもらいたい本を集めたYAコーナーがあります。



おすすめの本



『『さいごの本屋さん』の長い長い終わり』

野村 美月／著 (KADOKAWA) [YA/F/ノム]

街の最後の本屋さんである幸本書店は店長の急死により閉店することになった。お客様への感謝と在庫の整理のため閉店フェアをすることになり、そこへ店長の遺言で書店の本を任された高校生・榎木むすぶがやってくる。彼は本の声を聞くことができるといい、様々な想いを抱え閉店フェアに訪れた人と思い出の本を再会させていくのだが、店長の死の真相にもつながっていく。



『世界のはての少年』

ジェラルディン・マコックラン／著
(東京創元社) [YA/93 3.7/マ]

スコットランドのヒルタ島では毎年、冬に備えて大量の海鳥を捕りに大人3人と子ども9人で無人島へ向かう。今年も海鳥を捕りに無人島へ向かうが、約束の3週間を過ぎて迎える船は来なかった。いかだを作る材料はなく、自分たちだけでは島から出ることはできない。迎えが来るかわからない状況で彼らはどうやって生き延びたのか…。実際に起きた出来事を元に書かれた作品です。



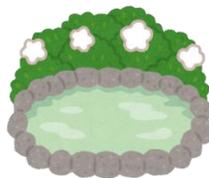
とき 大切な時間



『保健室経由、かねやま本館。』

松素 めぐり／著 (講談社) [YA/マツ]

転校先の学校で友達とうまくいけなくなった「サーマ」こと、佐藤まえみ。体調を崩してしまい保健室に行こうとしたとき、今まで気が付かなかった「第二保健室」の先生から声を掛けられる。「ゆっくり休みなさい」と謎の布を渡され、言われるがままに怪しすぎる床下のトンネルを抜けると、そこは中学生専用の温泉で!? 誰だって、心にも休憩は必要です。



『冒険考古学 失われた世界への時間旅行』

堤 隆／著 (新泉社) [YA/210/ツ]

考古学に興味がある隼人。石器時代にタイムスリップできるというスマホのアプリを使って4万年前にタイムスリップ! 超絶サバイバルを体験した。現代に戻ると考古学への興味が益々湧き、発掘現場の見学に行くことに。旧石器時代から縄文時代までの人々の暮らしの様子が小説仕立てで書かれていて、主人公と一緒に体験しながら知ることができます。



わいわいぱらら

2020年秋
読書の秋スペシャル!



読書の秋ということで、初のスペシャル版を発行！
市内各中学校の図書室の先生に、オススメの本を
聞きました。普段とはまた違った本と出会えるかも♪



『世界の果てのこどもたち』

中脇 初枝／著 講談社

戦時中、満州で出会い、戦後に中国残留孤児、在日朝鮮人、戦争孤児となった少女三人の物語。壮絶な戦争描写もありますが、それ以上に心に響く友情、優しさが描かれています。最終ページに記された多数の参考文献からもわかるように、よりノンフィクションにちかいものになっており、戦争を知らない子ども達に、是非、読んで欲しい感動の1冊です。

(平野中学校)

『運転者』 喜多川 泰／著

ディスカヴァー・トゥエンティワン

悩み事が重なり追い詰められた一人の男の前に、1台のタクシーが現れます。会うたびに大事なことを教えてくれるその運転者とは……。そして、その男の運命は……。運はいいか悪いかではなく貯めるもの、努力によって貯めた運は使うときが必ず来るんだ、というメッセージが詰まった、気持ちが前向きになれる本です。

(大野中学校)



『ピーティ』 ベン・マイケルセン／作

千葉茂樹／訳 鈴木出版

重い脳性まひで生まれ、体を動かすことも喋ることもままならないピーティ。彼とつながりその穏やかで優しい人柄に触れた人々は、ピーティのわずかな言葉を理解し、しだいに心が通うようになります。後半、少年トレバーとの出会いから友情が育まれやがて家族以上の存在へ。お互いを『知る』ことの大切さが詰まった物語。 (大和中学校)

『ぼくはイエローでホワイトで、 ちょっとブルー』

ブレイディみかこ／著 新潮社

イギリスで暮らす著者と中学1年生の息子の日常物語。中学生活で毎日のように起きる差別、貧困、ジェンダーの問題。中学生の息子は真剣に向き合い、しなやかな感性で乗り越えていこうとします。文章も読みやすく、時に笑えるユーモアにあふれた親子の会話。普段感じる事が少ない社会の問題を考えさせられます。 (大野東中学校)



『真夜中に猫は科学する』 葉袋 摩耶／著

亜紀書房

気まぐれでかわいいペット？自由に生きるノラ猫？いいえ！ここに登場する猫たちは、きっとあなたの知らないタイプ。真夜中に開かれる猫の集会。議題は「パンデミックが起こる！？」や「ウイルスは生物か？」などなど。著者は猫好きな医学博士。ふしぎな集会に参加した気分で、今こそ必要な免疫学や科学の基礎を知ることができます。 (御陵中学校)



図書室は、たくさん本を準備してみなさんを待っています。
まどかぴあ図書館はもちろん、自分の中学校の図書室も
ぜひのぞいてみてください。

